

# 「道徳の時間」学習指導案

指導者 平田洋一

砂川恵子

1 日 時 平成19年7月11日(水)第5校時

2 学 年 1年A組(男子17名 女子15名 計32名)

3 主題名 ルールの厳しさ 4-(2)

4 ねらい トリノ五輪での原田選手の失格問題を取り上げ、その時の原田選手の気持ちを考えさせながらルールや規則の意義そしてその厳しさを知らせ、それらをきちんと守っていこうとする心情を育てる。

5 資料名 わずか「200グラム」の失格(自作資料)

## 6 主題設定の理由

### (1) 主題観

「法律」「校則」といったきまりは私たちの生活に秩序をあたえ、多くの人が生活していく上での摩擦や軋轢を最小限にするために必要不可欠なものである。また、きまりを守ることが個人の自由を保障することにもつながる。中学生の時期は社会の仕組みについてある程度理解もできるようになり、法やきまりの意義についての理解も深まってくる。しかしその反面きまりについて反発する気持ちを持つ生徒も出てくる。なぜ、私たちの生活にきまりが必要なのかについて色々な場面で生徒たちに語りかけ、しっかりと考えさせることが重要である。

### (2) 生徒観

本学級の生徒も入学してから3ヶ月が経過し中学校の生活にだいぶ慣れてきたようだ。分からぬことばかりでなかなかスムーズに生活を送れない時期を過ぎ、ある程度先を見通して自分たちで活動できるようになってきている。その反面、中学校に慣れてきたことによって少しずついい加減な面、「ま、これくらいはいいか」といった面が見えてきているのも事実である。本時の主題である「ルール」「規則」「約束」といったことに関わって、それほど大きく逸脱するようなことはないが1学期の終わりのこの時期、道徳の時間でのこの学習をきっかけにしながら、1学期のふりかえり・夏休みの生活指導などを通じて自分たちの生活を見つめ直させることを大切にしたい。

### (3) 資料観・指導観

本資料は昨年のトリノ五輪での出来事を教材化したものである。生徒たちの間では、この出来事そのものの記憶は薄れてきてはいるが、オリンピックへの関心は強く、特に体育系のクラブに入っている生徒たちは強い関心を示すものと思われる。原田雅彦選手についてはほとんど知らない生徒が多いことが予想されるので、この授業の前に「長野五輪スキージャンプ団体戦」強い意志1-(2)を実施した。前の時間の学習内容とくつなげていきたい。

指導に当たっては、失格になったときの原田選手の心情を意思表示カードによる二者択一の形で考えさせ意見の交流をすることで、ルール違反をしてしまった原田選手の複雑な心情を確認していくながら、しかしルールがある以上「失格は失格である」というきびしい事実をおさえることでルールの厳しさや大切さを生徒たちの心情に訴えていきたい。

## 7 準備物

資料 ワークシート 写真 意思表示カード VTR パソコン(パワーポイントによるプレゼンテーション)

## 8 指導過程

	学習活動	発問と生徒の反応	T1	T2	留意点(○)と評価の観点(※)
導入	①前の時間の学習を振り返る。	<p>○前の時間に取り上げたのは何だった? ・スキージャンプの原田選手。 ・長野オリンピックでの金メダル</p> <p>○しかし、その原田選手はトリノではどうだった? ・失格。体重が200g足りなかった。</p> <p>○今日の授業はトリノでの原田選手の失格ということについて焦点を当てていきます。(VTR①3分)</p>	発問 発問 説明	支援 支援 操作	<p>○オリンピック5大会連続出場という輝かしい成績を再度確認する。</p> <p>○トリノ五輪での失格。少し記憶が薄れているようだ。</p> <p>○VTR①→原田選手の経歴とトリノ入りするまでの様子</p>
展開	②原田選手が失格になつたいきさつ。  ③失格になつたときの原田選手の心情を考えよう。	<p>○では失格にいたる経緯を確認します。 ・パワーポイントによるプレゼン→更にくわしく資料で確認(資料配付)</p> <p>○ルールがある以上失格は仕方ない。しかし、実際原田自身の気持ちはどうだったろう?「もし自分だったらどう思うか?」という視点からも考えながら自分の考えを選び、理由をワークシートにまとめてください。(原田の心情を原田の言葉で書くのもOK)</p> <p><b>意思表示カードの活用</b> 青→「えーっウソ! ? 知らなかつたんだ。見逃してくれ…」 黄→「自分のミスだ。仕方ない。いさぎよくあきらめよう」</p>	説明 準備 観察 発問 期間	支援 範読 支援 期間	<p>○時系列にそってドキュメンタリーのように解説。ルール改正の背景等についても説明を加える。</p> <p>○失格直後の段階で原田自身もそれを潔く「自分のミス」と記者たちの前で認めているのだが、それは言いながらも内心は…、というように、その時の原田選手の心情を考えさせる。 ※原田選手の心情をしっかりとと考えているか。</p> <p>○黄が多いことが予想される。原田の悔しさ(五輪はこれが最後かもしれない・せっかく苦労して勝ち取った枠etc)を強調しながら発問する。</p> <p>○双方の意見をしっかり出させて原田選手の中で渦巻いたであろう様々な感情をしっかりおさえることが、⑤のおさえをより効果的にする。</p> <p>※自分の意見と他の人の意見を比べながらさらに考えを深めているか</p>
	④意見の交流をしよう。	<p>○黄色の意見は? ・完全に自分のミスだから仕方ない。 ・すこし悔しいけどベテランだから潔くミスを認める。 ・ここで例外を認めたのではルールの意味がない。</p> <p>○青の意見は? ・ミスはミスだけど、やはり悔しくてたまらない。 ・最後の五輪かもしれない。これで終わりたくない。 ・たった200グラムだから見逃してほしい。</p>	発問	板書	
	⑤でもやはり失格は失格。	○ではVTRの続きをみます。(VTR②3分)～原田選手の心の中ではみんなが出てくれたようなたくさん思いが渦巻いていたに違いない。しかし当然だけど「失格は失格」。でないとルールの意味がない。ルールなしではスポーツは成り立たない	説明	支援	○VTR②→トリノ入りから失格まで。失格後のインタビュー時の原田選手の表情をしっかり見つめさせたい。
終末	⑥まとめ	<p>○その後、原田選手はどうしたと思いますか?…この出来事から約1ヶ月後に引退を表明(新聞記事を提示し簡単に確認する)</p> <p>○引退表明の段階で原田選手に悔いは残っていたのかな…?</p>	発問 説明	支援	<p>○輝かしい経験を持つ原田選手。しかし最後の記録は「失格」。</p> <p>○クラブ活動のことや学校生活の中のルールなどについて言及しながらまとめる。</p>
他の教育活動との関連		○学級活動(1学期の反省・夏休みの生活指導) ○生徒会活動(生徒総会)	心のノートとの関連		P88